

長田中 学校だより

元気発信感動ながた



第144号 令和5年3月24日発行
金沢市立長田中学校

Email nagata-j@kanazawa-city.ed.jp

学校ホームページURL

<https://www14.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1720003>

*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。長田中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

3学期終業式・・・

～ショーペンハウアー「ヤマアラシのジレンマ」より～

3学期の終業式は、3学期の締めくくりであると同時に学年の締めくくりでもあります。締めくくりにあたって、最近のみなさんの様子から、少しだけ話をします。

むかしむかし、あるところで2匹のヤマアラシが会ってお友だちになりました。その日はとても寒い日だったので、2匹のヤマアラシは近づいてお互いの体温で暖まろうとしました。しかし、お互いが近づくと、相手の背中に生えているハリがささって、痛くて痛くてしかたありません。そこで、あわてて離れてみましたが、それだと寒くて耐えられそうにありません。2匹のヤマアラシは、近づいては相手のハリで痛い思いをし、離れては寒さに凍えるということを繰り返していました。これではいつまでたっても落ち着かないと、2匹は協力し合って、ついにハリ痛みをガマンでき、お互いの「ぬくもり」で暖かく過ごせる距離を探し当てました。その後、2匹のヤマアラシは、いつまでも仲良く暮らしました。



この話はドイツのショーペンハウアーという哲学者が作った話で、生徒のみなさんも聞いたことがあるかもしれません。ヤマアラシたちは、「傷つきたくない」という気持ちと「相手のぬくもりを感じたい」という両立しない2種類の気持ちのために板ばさみになりました。このように、板ばさみになって悩むことを「ジレンマ」といいます。私たち人間も、誰かと親しくなると、ときには甘えたり遠慮がなくなったりして、相手を傷つけたり、傷つけられたりすることがあります。でも、傷つくのが怖いからと、誰とも親しい関係を作らないとしたら、それもまたさびしいことです。痛みが気にならず、しかも相手のぬくもりを感じることでできる心の距離を見つけることはとても大変なことですし、難しいことです。しかし、お互いが思いやりの気持ちをもって協力し合えば、くっつきすぎず、離れすぎず、ちょうどよい距離が見つかり、いつまでも仲良しでいられるということをこの話は伝えていきます。

「前はよく話をしていたのに、最近前ほど話さなくなった。相手は私に対して冷たくなった」「私だけの友だちだと思っていたのに、他の人と仲良く話していて、おもしろくない」などといった友人関係のトラブルを聞くことがあります。ここで、ヤマアラシのジレンマを考えてみましょう。ベッタリな関係は、痛みをこらえているだけの状態だともいえます。もしかしたら自分は痛さに鈍感でも、相手は我慢して辛い思いをしているかもしれません。離れすぎは悲しいものです。「人と人との距離感」はときとして難しい問題です。中学生や高校生は、誰しも一度はこの問題に悩みますが、実はこれは大人でもよくある話なのです。

「人と人との距離感」は、言いかえると「コミュニケーション能力」です。この力はたくさんの人と協働しながら、授業や部活動、行事に一生懸命に取り組むことでしか身に付けることができません。学校生活を通して「コミュニケーション能力」をもっともっと磨いてください。

最後になりましたが、全校生徒が健康・安全で楽しく春休みを過ごし、新学期、元気な顔で登校してくれることを願います。終わります。

離任式・退任式のお知らせ

春は出会いの季節であると同時に、別れの季節でもあります。お世話になった先生とのお別れの会を行います。異動は本日の夕刊または、県教委のHPで確認できます。

日時 3月29日(火) 8:40 場所 本校体育館



令和4年度の学校だよりは本日をもって終了します。1年間、ご愛読ありがとうございました。